

「柏崎の橋」

47 よなひめ 胞姫橋（上輪）

胞姫橋は上輪地区をはしる国道8号線の一部区間であり、芭蕉ヶ丘トンネルと米山トンネルの間、上輪橋を過ぎたところに架かる陸橋である。

古来より鉢崎（現米山町）から鯨波は「米山峠」と呼ばれる交通の難所であり、特に米山三里（鉢崎～青海川）は旅人を難渋させた。しかし昭和30年代以降、米山大橋・上輪橋が造られるなど、米山峠は大規模な改良工事が行われてきた。昭和39年には胞姫橋架橋が決まり、昭和49年に芭蕉ヶ丘トンネルと併せて開通のはこびとなった。



補修工事中の胞姫橋

胞姫橋付近は土砂崩れが多く梅雨・雪解け時期はよく通行止めになったといわれ、安全速度も時速30キロに制限されていた。しかし改良工事により、つづら折りに曲がりくねっていた道路はほぼ直線となり、距離も約3400mから約2700mに短縮。速度制限も解除されることとなった。

橋は全長120m、幅9.5m、工事費2億2千万円で竣工。芭蕉ヶ丘トンネル完工と併せた開通式が12月20日に行われた。当日朝からの雪模様だが、開式直前には日が射すおだやかな天候となり、地元住民や建設省、柏崎、柿崎の代表者など約300名が開通式に出席した。芭蕉ヶ丘トンネル前の式場では米山小学校児童によるバスバンド行進に続き、柏崎市長などによるテープカット、胞姫橋への自動車パレードが行われた。この胞姫橋・芭蕉ヶ丘トンネル開通により、昭和36年から14年の歳月をかけ33億円の工事費を投入して進められた米山峠改良工事は完了した。

胞姫橋の付近に橋名の由来となった胞姫神社がある。この神社は安産の神として知られるが、胞姫の「胞」とは胞衣（胎児を包む膜や胎盤）を意味し、その名は源義経の若君出産の伝説に由来する。



胞姫神社一ノ鳥居（北越名所）
（小竹コレクション絵葉書）

文治2年（1186）、奥州へ向かう義経一行がこの地を通った際、産気づいた奥方が若君を出産し、無事出産できた礼として、弁慶が神社の境内に胞衣を納めたという。

胞姫神社は古くから広く信仰を集め、多くの妊婦が参拝し安産祈願をした。参拝の際にろうそくを供え、短くなったものを持ち帰る。これを産気づいた時に灯すと、燃え尽きるまでに出産できるといわれている。

橋は1月末まで補修工事が行われていた。これからも柏崎・柿崎間の交通を支えていくであろう。

●参考にした資料

『柏崎市史資料集 民俗篇』

（224Kシハ）柏崎市史編さん委員会 編

『海の柏崎よもやま話』（224マエ）前川政三郎 編著

『柿崎町の歴史 第二集』（232カキ）柿崎町史編さん委員会 編

『米山の民俗』（382Nタイ）新潟大学人文学部民俗学研究室 編

越後タイムス 昭和39年、昭和49～50年

柏崎日報 昭和49年